

## 学位論文審査の結果の要旨

氏名	北澤 裕明
審査委員	主査 浅尾 俊樹 (印) 副査 青木 宣明 (印) 副査 田村 文男 (印) 副査 細木 高志 (印) 副査 山内 直樹 (印)
題目	イチゴの自家中毒に関する研究 (Autotoxicity of strawberry)
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>北澤裕明君は、その学位論文「イチゴの自家中毒に関する研究」の中で、その研究の背景（イチゴ生産における自家中毒発生の可能性）、目的（イチゴの自家中毒についての生理学的解明およびその回避法の検討）について明らかにし、次の実験についてまとめた。実験1「培養液非交換および活性炭添加がイチゴの生育および収量に及ぼす影響」では、今後増加すると考えられる閉鎖系養液栽培において、自家中毒による生育や収量低下が発生する可能性を示した。実験2「活性炭に吸着された物質の同定および同定された物質がイチゴ幼苗の生育に及ぼす影響」では、閉鎖系養液栽培における自家中毒の主な原因物質は安息香酸であることを示した。実験3「培養液非交換および電気分解処理がイチゴの生育および収量に及ぼす影響」では、培養液中で電気分解処理を行うと、培養液中に蓄積された安息香酸が分解され、イチゴの自家中毒の軽減につながる可能性を示した。実験4「培養液非交換およびオキシ処理がイチゴの生育および収量に及ぼす影響」では、NAAのようなオキシ処理が閉鎖系養液栽培におけるイチゴの自家中毒の軽減に有効である可能性が示された。実験5「イチゴ自家中毒の発生における品種間差異」では、現在栽培されている5品種を比較した場合、‘章姫’が自家中毒を起こしにくく、閉鎖系養液栽培に適した品種であることが示された。</p> <p>北澤裕明君の論文では、生産現場で課題になりつつあるものを研究テーマとして取り上げ、それを論理的に考察しながら、実験を組み立て、その解明および回避法まで深く追求している。以上、北澤裕明君の学位論文「イチゴの自家中毒に関する研究」について、主査および副査で審査した結果、博士（農学）を授与されるだけの学位論文であると判定した。</p>	